

広報



たかのす

第3種郵便物認可 昭和44年5月14日

◆発行所 秋田県北秋田郡鷹巣町役場

F.L. 01866) 2 1111

◆編集 総務課秘書係

◆発行部数 6,450部

◆毎月1日・15日発行

◆頒価10円◆郵便番号018-33

◆印刷所 成文社印刷所



年頭のごあいさつ

町長 出川 礼一

新年おめでとうございます。

七〇年代最初の一年もいわけ、内政の年といわれ乍ら、激増した交通事故、次に多様化した公害の発生、そして米の余剰による水田の減反。過疎、過密の進行等、きびしい情勢下における解決をみないま、に過ぎ去りましたが、町行政に対しては、町民各位をはじめ、各団体及び機関等、内外からの指導ご尽力をいただき誠に有難く深く感謝申し上げます。

幸いにして町行政も一步と前進し、多年の念願でありました役場庁舎の新築完成を見、更に、北秋田総合庁舎等一連の出生機関が新しい都市造りの構想の下に移転新築が確定したことは誠に喜ばしい限りであります。

ここに、新しい七一年を迎えましたが、依然として多くの問題をこの地域はかかえています。自治行政という限られた範囲でこれを解決或は改善し、住民の福祉の向上を期するには、幾多の困難と、また時間を要することは勿論であります。町の朝野を挙げて継続的に、しかも、真剣に取り組むものであります。

特に四十五年度をスタートとして、企画樹立した町の振興五カ年計画を基調として、社会の構造変化をふまえ乍ら、着実にこれを実行いたし度い。当面、今年は統合した三つの小学校の建築工事の完成と、市街地を中心とした上水道工事の着工、工場誘致或は移転に備えた用地の取得。及び広域行政への具体的構想化を具現いたしべく懸命の努力を傾注いたしたいものであります。更に町民とともに郷土を愛し、これを誇り、盛り上げる所存でございます。

町民の皆様そして、町内外の各団体、機関および組織体各位の特段のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

最後に皆様各位のご健康とご繁栄を心から、ご祈念申し上げます。

昭和四十六年元旦

森吉山眺望

画家・野呂正男（大向出身）作

「鷹巣町役場蔵」原画はF20号



No. 209

46

1 / 1

新春
特集

四校が完全給食に

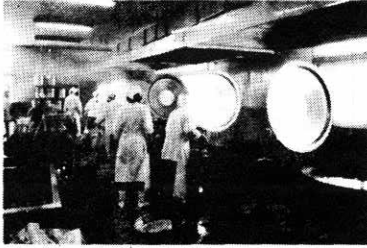
北部学校給食センター完成

鷹巣中学校に付設して昨年九月二十七日着工していた鷹巣町北部学校給食センターは十二月十日完成し、十二月十九日修式および竣工式が行なわれました。

給食対象は、鷹巣中学校、七座、坊沢、綴子の各小学校児童生徒と職員二千名。

鷹巣中学校を除く各小学校には運搬自動車で配られる仕組になっています。試食は十二月二十三日から三日間行なわれ、三学期からは四校が完全給食となります。

北部学校給食センター概要
◎本工工事(工務店福島組施行)
▽面積 二九二・八平方メートル
本館 二七三平方メートル
取付廊下 一〇・八平方メートル



2,000人分を仕度する調整室



鷹中を除く3校には運搬車で給食が配られる



昼食を楽しくとる～鷹巣中学校で

新議長に小坂氏



第十回町議会定例会は昨年

ボーラー室 九平方メートル
構造 鉄骨平屋建
▽室の内訳
調理室、事務室、休憩室、シャワー室、食品庫、車庫ホール、便所
◎設備備品(佐々木燃料商會外二店納入)
◎施設設備費
施設費七、五〇四、〇〇〇円
設備費八、〇五〇、〇〇〇円
計 一六、〇〇四、〇〇〇円

優良赤ちゃん表彰

四十五年度町優良児の表彰式が昨年十二月十五日午後一時から役場三階大会議室で行なわれました。

十二月二十一日役場三階議場招集され、会期を同十二月二十六日まで六日間行なわれました。
初日、会議に先立ち、成田敬治前議長長亡による新議長の選挙が行なわれました。その結果、推薦により小坂保雄議員が満場一致で選任され議長に就任しました。
小坂新議長の略歴――
大正十三年県立鷹巣農林学校卒業、その後鷹巣営林署勤務、昭和二十二年の公選第一回目の栄村長選に当選。三十一年の町村合併とともに鷹巣町議に連続四期当選。三十七年から栄農協組合長、北秋田農協組合会長となり現在に在る。

審査対象児は昭和四十四年一月一日から同年十二月三十一日まで生まれた三百七十五名が該当。うち第一次審査(二百五十五名)第二次審査(八十四名)最終審査五十二名から二十八名を優良児、そして生まれたとき未熟な赤ちゃんをじょうぶに育てたお母さんを二名を選んで表彰したものです。
表彰された赤ちゃんとお母さん、お父さんを育てた母親は次のとおりです。
(敬称略)



優良赤ちゃんの記念撮影

ダンスパーティーの
益金二万円を社福
協へ
鷹巣社交ダンス愛好会
十二月二十一日鷹巣社交ダンス愛好会主催の「ダンスパーティー」が鷹巣町公民館で行なわれ、その益金一〇、〇〇〇円を秋田魁新報社鷹巣支局を通して町社会福祉協議会へ寄付されました。

教育委員辞令

△昭和46年11月1日付け
学校教育課主事補
正 田 浩 美
主事を命ずる
△昭和45年12月1日付け
採用 斑 目 広 義
主事補を命ずる。社会教育課勤務に命ずる。

△昭和45年12月10日付け
社会教育係長 小笠原吉郎
学校教育課給食係長を命ずる
鷹巣町北部学校給食センター
所長心得の兼務を命ずる
南小学校葛黒校舎
用務員 小笠原 吉 治
鷹巣町北部学校給食センター
運転手を命ずる
鷹巣小学校栄養士
近 藤 節
鷹巣町北部学校給食センター
勤務を命ずる。

町職員資格合格者

昭和四十五年度町職員資格第二次試験は十二月十三日役場で行なわれ、次の二名が合格しました。
なお、受験者は第一次試験二十九名、第二次試験十名でした。

合格者住所氏名(敬称略)
成田 譲(鷹巣字八幡台)
近藤 文広(中屋敷字園の内)

毎月十日は
防火の日



昨年十一月三日、
教育文化祭の一環とし
て鷹巣町公民館で「七〇年
代鷹巣町のビジョン」というテ
ーマで井論大会が行なわれました。
参加者十名の井論文を収録しました。



鷹巣南中三年
佐藤 祐子

みなさん、みなさんは、現在の社会が住みよい社会だと思いますか。わたしは、決して住みよい社会だと思いません。

そこで、住みよい社会を築くために、わたしたちは、どうあればよいのか、考えなければならぬ、いくつかの問題があると思うのです。

交通事故、公害、米の減反にとむなう問題、青少年の非行、農家の出かせぎなど、かぞえきれないほどたくさんあります。

公害の問題は、何年も前からさけばれてきていました。

工場から出る廃液、煙害、鉱山の

不要物の処理など、数多くあります。わたしたちの住んでいる小猿部川流域も汚染されている疑いがあるといつて色々調べたようですが、今のところ問題になるほどのことはなかったようです。

なぜ、企業者側は不要物を川に流すのでしょうか。いくら、いまは問題がないにせよ、いつまでも不要物を流していれば「ちりも積れば山となる」ということわざのようなことになる、とつかえしのつかないことになってしまふのです。

これらのおそろべき、公害問題をわたしたちは、ひとつとは思われなくなっているのです。

次に、米の減反問題ですが、農家の人たちが、汗を流して一生けんめい働いても、あまり喜ばれないという悲しい現状です。

わたしたちの地域でも、今年は約六千七百六十三アール減反したそうです。農協の倉庫には、古古米と古米とあわせて約一万八千俵から一万

九千俵も残っているそうです。

米があまっている米があまっているといわれて、若い人たちは、農業からだんだんとうざかっていくのではないのでしょうか。

今年の収穫も終わっているにもな

国の方針が決まらないうことはいいたいことでしょうか。

このままの状況でいくと、米は、あまる一方だと思います。

そこで、政府は一日も早く農民が安心して働けるようにしてもらいたいと思います。

そしてまた、ここに大きな、もう一つの問題があります。残念ながら青少年の非行がめだつて増加しているということです。

今年の青少年の犯罪を調べて見ると、グループによる犯罪がもっともふえているようです。残念ですが、この鷹巣町でも、ある高校生たちがシンナー遊びをしているところを捕導されるという事件がありました。

このことを考えて見ても鷹巣町にも、わたしたちの目のとどかないところで、次から次へと犯罪がおこなわれているのではないのでしょうか。

人間は、だれしも不満を持っているのです。社会に対して、ときには自分自身に対する不満といろいろあります。

しかし、これらの不満をわたしたち一人一人が、積極的に解決していくことによって、人間の尊さがあるのだと信じます。

鷹 年々出かせぎ者が多くなっていると聞いています。出かせぎと非行は、無関係だとはいちがいにはいえないと思います。

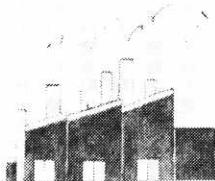
なぜならば最近では、女の人たちの出かせぎも増えているからです。

両親のいない、さびしさから非行に走る人々もいるからです。

この家庭でも子どもたちを残して出かせぎに行きたくないのです。そこで、この鷹巣町にももっととたく

さんの工場を誘致して、みんなが働けるようにしてもらいたいと思います。

す。



産業が発達することは、鷹巣町にとっても大変よいことですが、そこで心配なのは、工場から出るばい煙、不要物の処理の問題。

工場を誘致するにも、しっかりとした設備ができていて、公害問題がもちあがらないような、工場を誘致してもらいたい。

これらの問題を考えて見ても、わたしたちは無関心であってはいけないのです。時代をせおって立つ、わたしたち



鷹中 三年三組
米 沢 恭 子

青少年には、あすの希望とゆめがあります。どんな小さな問題でも、みんなが話し合い力をあわせて、一日も早くいや一刻でも早くこれらの問題を解決し、明るい、住みよい鷹巣町に築きあげようではありませんか。

私たちの鷹巣町は、ここ数年の間に、大きな建物や工場がたちならび商店などもそれぞれ装いを新たに、町には活気が満ちてきました。役場も新築され立派になりました。

今や私たちの町は県北の中心として、発展向上の軌道にのり、一歩一歩、前進していると言えるでしょう。このように、近代化され、発展しつつある私たちの町ではありますが

その反面、ややもすれば見すごされあまり関心をもちたれないながら、非常に大事な問題がいくつかあると思います。

その一つは、町の美化ということです。私のいう美化とは、新しい建物をたてるとか店をかざるとかいう意味ではありません。私たちのだれ

「もがでるごとく」といふたとえ、ゴミクズのない町、緑を大事にする町、きちんと清潔にされている町、などということだ。

毎日の生活の中であって、私たちの心の中から生まれてくる美化という事です。

私は先日、友だちと二人で中央公園に遊びに行ってきました。あの公園は郊外の静かなところであり、町でも最もきれいな場所でもあり、町の人たちの「いい」の場所でもあります。

ところが、どうでしょう。公園の沼の中には、アキカンとか、から袋があちこちに投げこまれてあります。それに、しばふの上には、紙くずやアキビンが、くず箱がきちんと用意されているにもかかわらず、あちこちに散らばり、秋風にとび散っているのです。

そこには、たくさんの人たちがきていましたが、だれひとりとして拾うものはありません。それは、しかたのないことかもしれません。しかし、その上にまた、平気で、紙くずをなげすんでいるのを見ると、私はかなしく、なさけなく思わずにはいられません。

公園は、私たちみんなのもので、静かであり、きれいな公園であって、私たちが楽しませ、いい場所となるのです。しかし、今の公園は汚され、あわれな姿になりつつあるのではないのでしょうか。

紙くずを捨てない、ゴミを拾う——本当に小さなことかもしれませんが、しかし、小さなひとつひとつのことから、町づくりは始められなければならない。

「きたないけれども、自分ひとりでは、しかたがないんだ」といっておったのでは、ものごとは解決しません。そこには、前進もまたあり得ません。

このことは、ひとりでは解決することのできない問題なのかもしれません。しかし、どんな問題でもひとりから始まります。ひとりのささやかな行為からまわりの協力が生れてくるのです。

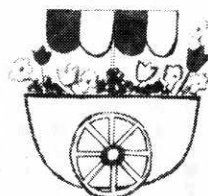
今、町のあるところでは、小さなグループをつくり「町をきれいにしよう」と小さいながらも、力を合わせて、協力している話をききました。私は非常に感動しました。目だたないところでのひとつひとつの行為が私たちの心に芽を育て、花を咲かせてくれるのです。私たちの協力を生み、きれいな町づくりへと、発展していくものだと思います。

町の近代的な発展は、もちろん大事です。しかし、それをささえ、私たちひとりひとりがだれでもできる町づくり——は、私たちの心の中にある。

私たちの中学校では今、生徒会の保健委員会が中心になって、「紙くずやゴミのないきれいな学校にしよう」という……、展開されつつあ

ります。何もむずかしいことではありません。今から、だれにでもできることなのです。私はこのことを、みなさんに強く呼びかけたいと思うのです。

「鷹巣町はきれいな町で、道路や公園には紙くずひとつおちていない」といわれるような町を、私は、ゆめ見ます。そして、そのために私たちにできることから、やっていきたいと思っています。



鷹巣小学校六年 道子 桜庭

私は、父の仕事の関係でこの学校が三つ目です。でもいつもそこが郷土のような気がしてなりません。

「鷹巣町」が「鷹巣市」に、私が第一に思っていた事です。

人口は町としては町内一で総合庁舎、営林署、警察署、統計事務所、

職業安定所、教育事務所など、国や県の出先機関があり、北秋の中心として、当然の事だと思います。

今年の三月、この町に引越してきて、おどろいたことは、いろいろな店がたくさんあることでした。父に聞くと、飲食店の数も人口割りにすると、全国二位で、にぎやかであり秋田県のシャンハイとも言われているとのことだ。

このような、商業のさかんな町であるのに、デパートのないのが不思議です。

秋田県には、デパートが三つしかないと言いますが、秋田市の木内、本金、大館市の竹村に続いて、四つ目のデパートは鷹巣町にできてもらいたいものです。衣類、はき物、食料品、カバン、装飾品など、買物が一カ所ででき、子供の遊び場や、食堂もあり、子供からとしりまで、みんなが、楽しく利用できるデパートであってほしいものです。

秋田観光三十景のひとつである、鷹巣中央公園には子供の国をつくって、町から動く歩道で行けるようにしたら楽しいと思います。

ジェットコースター、モノレールに乗り、放しがいにしてある動物達と遊び、ブドウやりんご畑の中を散歩して、のどがかわいた時は、くだものをほおばることもできる、考えただけで楽しくなる、こんな子供の国がほしいと思います。

「町へきて、いいなあと思った」

このひとつに、道路が、ごぼんの目のようになっていて、わかりやすいことあります。道はばを、大町のように広くし、街灯をたくさんつけて、夜でも安心して歩けるようにしたら、もっとよいのと思ひます。

鷹巣町は、あまり交通がはげしいとは思いませんがそれでも今年は、南鷹巣で幼稚園の子供がひとり、なくなりしました。

これから、どんな車がふえていくと思いますので、運転者も、歩行者も、みんなで気をつけ、交通事故を、記録していききたいものです。名前ばかりの交通安全都市にしたいありません。

車のふえる日曜祭日には、駅前通りの開放、歩行者天国などという時代もくるかもしれませんが。そんなチャチなことよりも、地上の道路は、歩行者専用、車は、地下道専用などとなったら、すばらしいでしょう。

北秋の中心にあり、土地の広い大野台を持っている鷹巣には、飛行場だって、あってもいいではないでしょうか。

ジャンボジェット機で、北海道へ修学旅行、などというのも、楽しいではありませんか。

鷹巣へきて、感心しない事のひとつに、水の悪いことがあります。私たちの生活にかくこのできない水をもう少しなんとかできないものでし

ようか。
まず、第一に水の出が悪いことで

また、どういうものか、毎日使っている湯わかしの口が、セメントで流しこんだように、白いブツブツができることです。

秋田市のように、消毒の臭いがしないので、お茶はおいしいといいますが、人体に対しては、どうでしょうか。

また、水道といっしょに考えたいことのひとつに、下水道の完備があります。

道を歩いていて、いやな臭いのする所がたくさんあります。ごはんつぶや野菜のくずがたまっている道路下水を掘って道路にあげ、消毒薬もかいている人達。こんな人達が多いからハエやカが多いのでしょうか健康で、文化的な生活とは、およそほど遠い生活のように思います。

大都会のように、社会の三つの悪である公害、交通事故、高い物価になやまされたい、いつも明るい鷹巣町でありたいと思います。



現代は、物資が豊かであるわりに

人の心が貧困であって、いわれていまず。

心豊かな住民と、公害や交通事故もなく、また、高い物価になやまされることのない、住みよい鷹巣市を作るため、みんなががんばろうではありませんか。



会子 青島 子 綴 藤 島 桃

学生時代よく女性の職業という問題について語り合ったものです。仕事と家庭を両立させていきたいという人、結婚したら家庭に戻ると言う人と半々ぐらいでした。個人の環境や性格によりどちらが良いとか、悪いという結論はできませんでしたが、私は結婚してからも働けるような生涯の仕事をもちたいと考えていました。

女性は家庭に戻るべきだと言われていますが、女性にとって職業をもつということはそんなに中途半端でたいして意味のないことなのでしょう。女だからとか、女の幸福は家庭にしかないという考え方には全く反ばつて覚えます。女性の天職は家事だけであるとは決して思わない。家事は生活の手段であっても目的で

はないはずだと信じています。家事の中のどの部分をどこまで機械化、合理化することによって、どの程度女性は家事から解放されて、この広い人類の文化社会に参加できるだろうかと考えると家庭にばかりとじこもっていないで、どしどし女性職場に進出していくべきだと思う。

今や世界中の女性は生活の礎として家庭と社会で堂々と活躍しています。日本の働く女性の現状を見ても十五才以上の女性が約四千万人、その半分約二千万人が働いています。この鷹巣町でも働く女性は年々ふえている現在ですが、まだまだ結婚したら止めなければならぬという職場があるというところは、働く女性の意欲を減退させる原因にもなるのではないのでしょうか。現在の高い物価や消費ブームに所得が追いつかない時代では結婚してからも共稼ぎしないと生活していけないということ働く女性は今後ますます多くなると思います。

二年前の話ですが、私が今の事務所にいった当時、とても美しく皆の人氣者でA子さんと言う人がおりました。A子さんは口八丁、手八丁で男の人も負けてしまう程でした。入って日の浅かった私は毎日叱られっぱなしでA子さんが恐くて会社を止めようと思った時もありました。そんな中でいつか私はA子さんを尊敬するようになっていたのです。A子さんは知性と教養が有り、しかも全

ての物。心の底から熱中し努力する人でした。そんなA子さんから私は少しでも何か得ようと積極的に近づきました。

まさにA子さんは現代の働く女性の未来像でした。どんな仕事にも生き涯を感じ熱意をもってやりとげ、しかも女性らしいやさしさと機転を持ったA子さんは、誰が見ても美しく魅力のある女性だったのです。そしてその美しさの魅力はA子さんが職業を通じて、おのずから体得した。A子さんの知恵からにじみでたものでした。A子さんとの付き合いは六カ月で終わりました。A子さんは結婚して職場を止めてしまったのです。この時私はA子さんの未来像に一步一步近づこうと心にかたくきめました。

職業は人生の学校だと言われます。人生を学ぶには家庭でも、学校でも本でも、知識としては学べます。しかし職業を通じてこそ、人生は初めて生きたものとして体得できるのではないのでしょうか。失敗をすることもあるでしょう、それによって世の中のさまざまなことを知り、自己を反省し、きびしい職務に絶えることにより、自己を磨くことができるのです。自分一人、自分の家庭、自分の周囲だけのようには、せまい範囲しか考えない、閉ざされた人間としてではなく、広い社会的視野を持つて歩もうではありませんか。女性は職業を通じて、経済的自立心が得

られ、社会の進歩に参加することができ、自己完成への道ともなりうるのです。それは職業をはなれて家庭に入ってから大きな自信となり人生の支えとなっていくものだと思います。

働く女性の未来像とは、職業を通じて謙虚な心を持ち積極的に、熱意をもって、自己の希望に一步一步近づこうと努力することにあると思います。



鷹巣南中学校2年 子 相 馬 知



皆さんは、現在の鷹巣町の姿を、どのように考えておられるのでしょうか。私は、まだ鷹巣町の政治とか経済などと、そのようなむずかしいこと

は、よくわかりませんが、鷹巣町について知っていることが少しあります。それは、まだまだ、不便な点や多くの問題点があることです。

第一に、子どもの遊び場にしても、町の中央には児童公園などありませんが、町からはなれると、そんな遊び場は、どこもありません。私の兄が子どものころは、大人が干渉しないせいか、自由に自分たちの遊びを見つけだして、遊ぶことのできる時代でした。

鉛筆のサツクに、火薬をつめこんでロケットを作ったりしました。しかし、一度も、うまく上がったことは、ありませんでした。

変な例かも知れませんが、もちろん危険な遊びです、でも作った。みんなは、こんどこそは、こんどこそは、と、今の子どもたちよりも、もっともつと大きな、夢と希望をもっていたと思います。

ところが今は、危険な遊びは、もちろんできません。それだけに、兄たちがうらやましく思えるのです。

そのころに比べて、今は遊び場をもつことのできない、子供達がかわいそうでなりません。遊び場がないために、自然と路上で遊ぶようになり、交通事故もふえだすのです。

子供達が、だんだんと、自分たちだけのせまい中にとじこもっていくように思えるのです。大人の遊び場はあっても、子供の遊び場がないということは、いったいどうい

うことなのでしょう。

私の部落の会館も、前は子供達もよく出入りすることができたのに、今は、大人の集会場だけになってしまい、子供達は、かつてに出入りできなくなりました。

それに、今年の夏は、鉾山の公害さわぎで水泳が禁止された地区もありました。いったい、子供達は、どこで、何を遊んだらいいのでしょうか。

「子供の遊び場」？なんだ、と簡単にかたづけしてしまわず、もっと真剣に考えてほしいと思います。子ども達のために、少しの土地でも分けてやってください。

次に、鷹巣町はこんな小さな町なのに文化的設備のおくれている僻地がたくさんあるということです。

バスは通らない、冬の吹雪の日には村から一歩もでることができない日もあるという、たいへん不便な地区に住んでいる人々は、一戸、二戸と村を去って行きます。

私の部落も十軒も家がへりました。きつと今に無人の村になってしまふのではないのでしょうか。若い人は、そんな村にはもう用はありません。だから苦しい思いをしてまで、村に残っている必要がないのです。

次から次と、若い人は村を出て行きます。今に鷹巣町だった老人と子供だけになってしまうかも知れません。そうやってしまつてからでは、おそいのです。そう、てからあわて

ても、もうしかたがありません。

若い人が少なければ少ないほど、鷹巣町の発展はおくれ、次から次と出て行く若者を誰もおさえることができなくなってしまうのです。

そんな町にしないために皆んな力を二つにしてみよう。みんなが悩む公害などと、人々がほんとうに悩むほどの大きな問題は、今の鷹巣町には、ないかも知れません。

しかし、今まで述べたような小さな問題でも「ちりもつもれば山となる」ということわざのとおり、今にどんな大きな問題になり人々を苦しめだすかわかりません。私の言いたいことは、どんな小さな問題でも、私たちの手で、一つ一つ解決していかなければならないと言うことです。

私と同じような考えをもっている中学生もたくさんいると思います。これからの鷹巣町を背負う私たちも、力いっぱいがんばって行きたいと思っています。

ここにいらっしゃるたくさんの方の皆さんへのちかひのことばとし、そして皆さん子供達に夢を、遊び場を、強くうたえ私の弁論を終わります



鷹巣連合青年会 誠山 亀

日本の未来を受け継ぐ青年の姿はどうあるべきでしょうか。

私があえて、鷹巣町における70年代のビジョンと提言されたこの場において、青少年の問題をかげな

ればならなかったかということは、日本は戦後二十数年のきわめて短かい間に、世界第一の経済成長を遂げ

し、七〇年代、二十一世紀へと一層の経済発展がうかがわれるにもかかわらず、青少年の問題は、犯罪の凶

悪化や、性犯罪、学生や反戦などでの暴力的行動といい、ますます深刻

かつ複雑化しつつある現在において、企業も政治も教育も、この問

題をさけて通ることができない。この問題こそ、社会が第一に解決する

べき問題であり、我が秋田県、我が郷土の町や村とて、この問題に左右

されること大であり、七〇年代のビジョンも、この問題の解決なくして

は語ることはできないでしょう。

このような青年問題は、先進国といわれる世界の国々においても、最も重要

な問題にされることからみて

も、この問題は、現在への挑戦ともいえる。

高度経済によって、生活の向上と

充実、又は、余暇の増大、さらには仕事のもつ意味や内容においても、

七〇年後期には、生活のため自分を犠牲にした戦前とはちがって、仕事

も本来の自分の創造的活動の場、生きがいの追求の場として変革されな

ければならないし、歴史的な変化として、又、新しい価値感として確立

されなければいけないのではないで

しょうか。

しかし、新しい価値感への青年の行動においては、まだ多分に、二面

性がうかがわれ、その一つは、経済束縛から解放され自由でありながら

も、工業優先の価値感のシステムの中では、依然として、青年のエネル

ギーを十分に発揮できない状態にあることであり、もう一つは、人間尊

重の新しい社会と、移行しつつある現在、新しい価値観を知識しつつも

明確にまだ認識してないゆえに、若者のエネルギーのはけ口や、目標の

ない生活から、青少年の犯罪や、学生、ゲバルトの破壊と、青年のあふ

れるエネルギーの制御と、アンパランスの兆候がみられることである。

ところが、大きな問題をおこす青年にも、大人同様のマイホーム化の傾向が強くうかがわれ、もはやそこには、「青年よ、大志をいだけ」との若者特有の理想主義的な姿が消え、青年というには、まことに、貧弱き

わまならない姿として写し出されると
きがあり、この点常自らを省りみ
なければならぬと思う。

企業中心社会が、青年を拒絶して
いることから生じる挫折感が、ヒッ
ピーやマキシ等の奇妙な服装や、理
由なき犯罪、消極的なマイホーム化
と、数多くの問題を提起しているの
ではないでしょうか。

これに対して、社会や旧世代は、
このような青年世代を生き妻の喪失
状態に埋没させて置くのではなく、若
者を創造的な反ばつへと走らせ、社
会問題の中心として、青年のあふれ
るエネルギーを、矛盾社会を革新し
て行く原動力として、社会の中に位
置づけなければいけないのではない
でしょうか。

現社会では、価値観が多様化した
時代であり、七〇年代にいたっては
今後ますますその傾向が強まるとい
われておりますが、しかし、ここで
忘れてはいけないことは、多様化し
ているのは、生き妻の対象であり、
価値観は生き妻を中心としたものに
変化しつつあるに過ぎないというこ
とです。

一九七〇年代とは、人間的欲求に
よって行動した場合、常に生き妻を
感じ、充実感が得られるような社会
こそ、新しい社会のあるべき姿では
ないでしょうか。

このことは、教育においてもいえ
ると思います。
企業中心の社会では、いちじるし

く人間性が抑圧さるるようになり、人
間性の達成が目的であるはずの教育
も、又、企業の犠牲にされた下地が
あってこそ、六〇年代における経済
の発展が達成されたこと、あえて強調
したいのです。

しかし、現代の青年は、知識伝達
としての、又、経済成長の犠牲とし
ての教育は、決して望んではないとい
し、そうあつてはいけないというこ
とを社会に訴え続けなければならない
のではないのでしょうか。

皆さん、新しい社会に対しては、
新しい制度や思想の確立がおこなわ
れないことには、新しい社会へと移
行しつつある現在の問題は、解決さ
れないであろうし、解決されなくて当
然と思うのです。

これ等の問題の解決には、非常に
ばく大な経費および時間と労力とを
必要とすることは、当然のことでは
ないでしょうか。

一九七〇年代へと新しい社会での
新しい価値観を革新、かつ、創造す
ることができるとは、きわめて敏感
に反ばつと生き妻を気さくしつつあ
る。

強力なエネルギーをひめている私
達青年をおいてしか、これを強力に
推進することはできないであろう。

それでは、青年諸君は何に生き妻
を感じ、自分の将来に、日本の将来
に、何を期待しているのでしょうか
退くつしのぎに一瞬の楽しみを求
めるのか、あるいは、やみにむか

て目標もなく、青年のエネルギーを
発散させるのか、しかし、いつの時
代にも青年の純粋な心と、あふれ
るエネルギーほど尊いものはないの
です。そのエネルギーを私達みんな
の新しい社会づくりのために発揮し
てこそ、私達の生を疎外している
これらの問題の解決をはかることに
より、青年のあふれる真の情熱をは
だで感じることができるとはな
いでしょうか。

私がこれまでのべたように、一九
七〇年代に主役として登場する。

現代の青年諸君の新しい社会にマ
ッチした姿とは、生き妻の喪失とい
う目標のない状態からの脱出をはか
りつつ、現社会から生じる人間疎外
の全面的な解放を打開するために、
新しい社会の中で自己の立場の確認
と確立につとめ、社会の中に根ざし
社会をよりよくし、住みやすい社会
をつくるために、自主的に立ちあが
り、変革のプランでもって、創造的
な努力をつみ重ねて行く姿こそ一九
七〇年代に期待され、かつあるべき
青年と姿ではないでしょうか。



三年四組
富田ひとみ

70年代の鷹巣町のビジョン”こ
のテーマはこれから鷹巣町で生活す
る人々にとって、本当に大事なこと
と思います。なぜならば、私たちの
手で豊かな、社会環境を整え、経済
的にも発展した町づくりをしなけれ
ばならない義務があると思うからで
す。

しかし、これからのビジョンをた
てるためには、過去の歴史を知る必
要があると思います。単なる空想や
理想だけでは、真の町づくりは出来
ないと思うからです。

現在の鷹巣町は、鷹巣町、栄村、
坊沢村、七座村、沢口村の5カ町村
が、昭和30年4月1日、新鷹巣町と
して合併したが、その後、旧七座村
の麻生、小瀬、下田平の三地区は、
二ツ井町に分割されています。また綴
子村、七日市村は、昭和31年9月30
日、編入合併となり、人口2万8千
人あまりの町が出来ました。

町村合併の大きなねらいは昭和28
年11月1日、施行された町村合併促

進法に基づいて町村の規模を適正に
し、行政の運営を合理的、かつ能率
的にしようとするのであって、戦後
の町村はいろいろな面で、事務量が
多くなり、人件費や物件費が年々か
さみ、小さな財源ではとうてい住民
のしあわせを高めるような事業がで
きなくなつた。こうしたことを解決
するには、大きな力が必要というこ
とになります。

新鷹巣町が出来あがるまでは、地
域的な問題、住民感情等により必ず
しも、賛成の住民ばかりではなかつ
たようでした。そこで新町発足当時
の建設計画をみますと、農業生産を
基礎にして、商工業の振興をはかる
とあります。このため、農村部と町
部との均衡調和に留意し、交通網の
拡充整備をはかるとともに、農業の
ために区画整理を実施し、農道の修
理整備を行ない、各河川の治水、お
よびにかんがい整備を促進して農
産物の生産増強をはかり、農業の多
角経営の合理化に努力するとともに
工場誘致を考え、生産及びに商工都
市としての飛躍的發展をはかりたい
なお、将来財政力の充実を期するた
め、関係町村の基本財産の統一をは
かり、林野の有効適切な経営をなし
その活用により、住民の福祉に寄与
するとともに、あわせて国有林の払
下げを受け、山林の機能を發揮する
ため林道網の整備を行って、財政基
礎を作り、教育、文化、厚生、衛生
の各施設の整備拡充をはかり、町民

の福祉を増進する。というのが、新町建設の基本方針であります。

要するに鷹巣町は産業の基盤は、農業であるから、その振興を柱に、町部の商工業も育成し、農業、工業、商業の調和のとれた町づくりにする。ことだと思えます。新町になる前の町村をみて、やはり農業が主体であったことから、これは当然のことだと思えます。

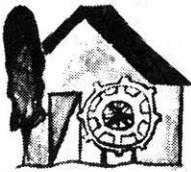
しかし、内容をみますと耕地面積は3571町歩で町の総面積の1割もありません。残りは、山林、原野で山林のうち6割が国有林であります。農家の経営状況も1町歩未満が46%と零細農が多く、これらは、出稼ぎなどにたよらなければならぬ現状であり、このことは米の生産調整とも関係あり、このままでは今後ますます増加すると思われますので、企業誘致などにより出稼ぎ防止対策も必要であります。また人口問題であります。若い者はほとんど都会へ流れ、農家には年寄りに婦人と子どものみが残っているのが現状ですがこうした状態では、明るい、豊かな町とはならないだろうと思えます。

結論を言うと、鷹巣町の建設は、若い私たちがやらなければいけないのだと思えます。時代の流れを正確にとらえ、常に住民が参加して何事にも積極的に協力し、明るい町づくりに励む以外に方法がないと思っています。

こうしたことを実現するためには、

まず、人間性豊かな町民を育てることが大事であります。そのため、次代をになう子どもを幸せに育てるため、次の三つの対策が必要だと思えます。一つ、子どもがみんな保育所に入るように各地域ごとにより、そして、母親が、日常生活に支障のない働きができるように。二つ、児童館も各部落ごとに設け、正常な運営により、地域の子どもたちが、みんな楽しく遊んだり集団生活の経験を養成しやがての社会生活へ順調に移ることのできる体制が必要ではないでしょうか。三つ、母親の健康を守ることも、子どもをすこやかに育てるための、重要な要件です。母子健康センターの設置もぜひ必要です。

最後に、中心になる町に上水道、下水道の完備することを希望します。人間生活に欠くことの出来ない水の道はばもせまく、家が建てこんでいたものだといわれています。そのころに比べると今の鷹巣町はとも、住みよい町になったと思えます。



鷹巣小学校六年 伊藤 智子

わたしも父母もそして祖父母もみんな鷹巣町に生まれて鷹巣町で育ったのです。

この鷹巣町も祖父母が生活していたころは、どんなだったでしょう。きつと、わたしの想像以上の不便さだったろうと思えます。

父母からはよく、父母のおさなかつたころの町のようにについて聞かれます。父母の小学生のころは、道はばもせまく、家が建てこんでいたものだといわれています。

そのころに比べると今の鷹巣町はとも、住みよい町になったと思えます。

しかし、わたしの郷土、鷹巣町をもっともつと明るく、住みよい町にしたいものです。

まず第一に、町の玄関である駅前がよくならないと思えます。旅の人が鷹巣町をおとす時の印象をよくしたいものです。

鷹巣駅前に町のシンボルである鷹の像があって、その回りが花だんだつたらどんなにすばらしいことでしょう。

よう。いつか、鷹巣町では、花いっぱい運動をして、道ばたや家の前にもミカン箱に植えられた花がいっぱいさいっていました。

鷹の像があつてきれいな花のさいている町をそして、そこにはやさしいマボリスさんがいてくれて町の道案内もしたら、旅の人はきつとよい印象をもたれると思えます。

次は、住みよい町作りのために、交通事故のない町にしたいものです。それには町内全部の道路をほそうして、車道と歩道を区別して、安全な道路を作らなければなりません。

今、危険箇所には、信号機が取り付けられてはいますが、まだまだ充分ではありません。特に、交通のはげしい大町やそのほかの国道などには、歩道橋があつたら、運転者も歩行者もどんなに助かることでしょう。

大型車のためには、町の中心部をさけられるように、バイパス道路を作つたらいと思えます。

それから町の中心部だけでなく、町はずれにも街燈がほしいと思えます。町が暗い心までが暗くなりま

す。わたしの町内でもあまり街燈が取りつけられていなかったのとて不便でしたが、町内の人の協力ですばらしい音楽や演げがかんしうでできると思えます。

また、児童公園の一角には、屋外ステージがあつて、町のいろいろな文化行事もそこで行なわれたり、すばらしい音楽や演げがかんしうでできると思えます。

きつた人たちに感謝したい気持ちになります。それに、夜の町が明るくなることは、交通事故防止にも役立つことになります。

その次のわたしの願いは、町の公共施設を充実してほしいことです。

まず児童公園です。今の児童公園ではせますぎるので、広い児童公園がほしいのです。それでわたしは、自転車に乗って町を回ってみたら、児童公園にふさわしい所が見つかりました。それは、栄に行く途中の田んぼです。あそこなら、わたしの考えている児童公園が実現すると思えます。そこにはたくさん遊具があり、木もたくさん植えられて木かげが作られていたら、遊びつかれた子どもが、静かに休んでいられます

また、自転車遊びも精一ぱいできる自転車コースがあつたら、とても楽しいと思えます。家庭の日には、親子そろって遊びに行けたら親子の対話も出て明るい家庭作りも出来ると思えます。

それから町営プールもほしいものです。広くて清潔な水がたたえられていれば、気軽に親子で泳ぎを楽しむことができます。

また、児童公園の一角には、屋外ステージがあつて、町のいろいろな文化行事もそこで行なわれたり、すばらしい音楽や演げがかんしうでできると思えます。

大きな図書館もほしいものの一つです。今の図書館では小さいし、小

路に建てられているので気軽に利用することが出来ません。

たくさん蔵書があって、設備の整ったえつらん室で静かに読書出来る図書館であつたら、とてもわたしたちの学習や町民の教養に役立つと思います。

最後は、鷹巣町に住む人々の心の事です。それは、町民ひとりひとりがわたしたちの町を愛することだと思ひます。どんなにすばらしい設備が整い、近代的な建物が建ち並ぶ鷹巣町でも、その町に住む町民の郷土愛がなければ文化的な町作りは進まないと思ひます。



中央公園や、がいろ樹の手入れをして下さっているおじいさんたちまた、児童公園の清掃と花だん作らをして下さっているおばあさん。この人たちは心から郷土を愛して、自主的にやつておられますが、このような心がけを町民みんなが持たなければならぬと思ひます。その一つの方法として、月一度の「町民の日」があつて、その日はこの門口にも鷹のある町の旗がたてられたらいいと思ひます。そして全町民による文化行事や運動会など、町の発展

がもり上げ、いろいろな行事があつたらどんなにすばらしいことでしょう。わたしのゆめが本当にゆめでなくなる日が一日も早くくることを願つてこの発表を終わります。



同校共済建設技術訓練所
鷹巣高等職業校
忠美 小坂

七〇年、安保の年と言われた、この年、交通事故をも数へるさえない。公害問題も社会全体のなやみとなつて、私達の身のまわりまでおしよせて来ている。今日この頃の社会状況ではあるが、まだまだ我々には無感心きわまる、現実であると思ひます。

さて、私の身近から一言述べたいと思ひます。

鷹巣に生まれ、育った私は建築技能の職務に着いたが、ほとんど毎日があたふた仕事におわれてきています。そう言つてもいいくらいであつた。私だけではなかつた。同職をもっている仲間もまたそうであつたはずである。なぜなら、ここ二、三年前までは私達にはきまつた休みというものではなかつたのだ。それも、時代の進展とともに、月に一回ないし二回の休みの日が雇用主方の加入する組合によってきめられたのです。夜しか

なかつた自分の時間をやつと昼間に持ち出す事が出来た。若い者にとつて、何もしなくとも日曜があるという事は楽しいし、それはあたりまえのことではないか、私達たちだけではなかつた。人間であればほとんがそう感じるのではないかと思ひます。でも休みの前まで楽しいと感じるだけで、その日をた何となく過してしまふということも少なくないのです。

その私達に、昨年から技術だけでなく、学問を学ぶ機会をも与えようと、ここ公民館に技能青年学級を開設して下さいました。私達の雇用主方の御好意と町当局のご好意により、私達に学ぶ場所を与えてくれたのです。

ここには、少しでも知識を高めようとする若者が集まり、休みを返上して、学ぶことに、専念した。そしてまたレクリエーションをも楽しんで来ました。

今年はまた、私達の学友技能青年学級も、県の認定校となり、名前も鷹巣建設技能共同高等職業訓練校とあらためられ、三年間の高等教育に私達はいつその意欲を燃やしているのです。

町長さんを校長とする先生方は、熱心に御指導して下さいますし、私達もまた熱心に学んでおります。ただ学んでいるのではない、学生生活を終えてから学問の必要性を感じたような状態でもあるし、また、広い

建築士資格を得るために学んでいるのです。

私は、働きながら学ぶという事はほんとうの学問ではないかと思ひます。これこそ働く若者にとつて一番大事なことであり、意義であると思ひます。まだまだ入学したくとも出来ない仲間もいる事だろう。私達はすべての仲間、この意義を、おしえてやらなければいけないと思ひます。

これからは私達の為に、若者のために、皆様の御協力と御理解をお願いします。



鷹巣町青年会
伊藤道昭

一九七〇年の新年雑誌、新聞等を

見れば、一勢にそのタイトルは人間の未来、未来性の問題、あるいは科学の発達がいかに際限もなく人間社会を豊かにするかなど、明るく、まさに夢又夢、未来又未来で、現存する私共の日常生活がこれからおとずれる社会の流れについていけるかあるいは消化できるのかと怖しい不安すら抱いたものである。

それから一年さかのぼつて69年の新年号は又これと全く違つた問題の提起がなされてきた。昨年といえは昭和35年から始まつた日本の高度な経済成長が、世界各国の注視を浴び内外からエコノミックアニマルと皮肉と驚嘆の評価がなされ始められた頃であるが、その69年の多くの雑誌新聞等は経済成長即ち日本の経済大国をおう歌し。自由陣営のみならず、アジア諸国のリーダーシップ日本にありと、とにかく経済という名の下に多くの諸問題が、あるいは生活の原理が余儀なく変化して来た頃であり、とりわけ残業という口実は社会のかつこい相言葉であり、24時間、これ全てビジネスという時代であつた。

そんな明るい材料だけに生活が早いテンポ、経済成長も早い足どりでタンタンと進んで来たものの、2年もたたぬ最近、いわゆる公害問題が全ての国民の深刻な課題として、今、眼前に立ちだかつている。人間の作つたものが、人間を殺す。そんな事を誰が予期し、誰が望んだかは知

らないが、少なくとも、誰もそんな社会を作らうなどとは思わなかったはずである。平和である事の血なまぐさい戦争、それを人は、交通戦争と名づけたが、今我々の前にはその交通戦争とは比較にならぬ大きな戦争が待ち受けている。まさにそれは国民全ての生命へのたたかいでもあるのだ。そうした大きな問題を留意しながら人口3万という我々郷土鷹巣町の問題に眼をうつしてゆくとそのとりまく環境は決して安易なものではない。なかならず、若年労働量の流出と同じように出かき問題、そうしてこの地方の経済のかなめとなつて来た農家経済の先行き不安、その他の一次産業の不振、とかえすがえすも悲しい現象がなだれのごとく展開され、一つの飛躍として、工場誘致の画策は、いわゆる重化学工業、公害産業しか保ちうけていない。又三次産業を見ても同じように大資本はその進出を著々と我々の町にも一日と近づいて来る。

そうした暗い、外的要因を直接、間接にふれる時、一体我々の生きる道はどこに……と不安をつのらせるのも至極当然の感覚である。

地方都市の持つ主体性の弱さの中で今全ての町民の総意で、町造りの原点が考えられなければならないが、地方都市におけるさまざまな現象を見聞きする中で、失われつつある人間性を人と自然が同化する理想を田園都市をとタイトルをかかげたいの

であります。

鉄片のごとき心情と、向う三軒両隣りすら知らないのが、都会の生活であるなら、綿のごとき暖かい心情と、3万人の人々が誰しも知り合える、知っている町に……

鉛とスモッグを口にする生活が都会であるなら、新鮮で葉緑素にめぐまれた空気を口にする町に……
そうして郷土出身者がいつも楽しく帰ってくる町に……

そんな町が、70年代に一步でも近づく年を望むのであります。

飲酒運転を追放しよう



道路関係が十六件

町長への手紙から

町では、広聴活動の一環として十一月いっぱい「町長へ手紙を出す運動」を行いました。期間中に寄せられた方は三十人、四十六件の意見等が寄せられました。寄せられた件については、よく検討し解決することにしていきます。手紙の内容を分析すると次のとおりです。

【差出人地区別】

鷹巣地区12人 栄地区 2人
綴子地区2人 坊沢地区 1人
七座地区1人 沢口地区 3人
七日市地区4人 東京 1人
不明 4件

【差出人性別】

男 17人 女 10人
不明 3人

【差出人年代別】

10代 3人 20代 2人
30代 7人 40代 6人
50代 2人 60代 4人
70代以上3人

【職業別】

公務員 3人 事務員 1人
団体職員1人 自由業 1人
商業 2人 会社員 1人
農業 6人 運転手 1人
主婦 3人 無職 3人
学生 3人 不明 3人
【意見等の部門別】
総務 5件 土木 18件
衛生 5件 商工 2件

【主な内容】

▽伊勢町の道路敷地をみんなで提供して工事待っているので早く着工してほしい▽農林高校正門前の道路補修を▽除雪の際に注意を▽ごみ捨て場と衛生管理について▽学校通りの排水路について▽各種の希望、意見陳情など総体的に処理する課を新設を希望する▽深閑三差路の交通標識を再検討してほしい▽下水路の排水と側溝完備を▽旧役場庁舎があった当時と同様に仲町の除雪をお願いしたい▽県道比内小森を国道に早期実現を△出かせぎよりも何か主婦の仕事がないか▽駅前通り都市計画による道路完成と補修について▽町を讃える歌を作してほしい▽町職員に対して町民サービスのため名札をつけるよ、▽遊休校舎を利用し工場誘

致を▽鷹巣―下大沢間バス路線延長について▽児童公園の遊具をいつもきれいに。くぼんでいいる穴は整地してほしい▽気軽に出来る穴は整地してほしい▽料理講習会を開設してほしい▽農林高校通りをアスファルト道路にまた町全般的道路整備に力を入れてほしい▽辺地総合計画は広報で知りましたが、道路の拡幅、通学バスの運行など早期実現をはかってほしい▽町長も多忙と思われるが町道を巡視するように▽夜の町を明るくするため街灯増設▽消雪道路を広げてほしい▽交通安全旬間の街頭指導の徹底▽町の周囲(栄字中綱地区、農林高校うら)にどんな住宅が建築されていますが、都市計画(道路、排水溝)的な事は町当局は考慮してられるか▽上水道の計画はあるそうですが早く実現してほしい▽不燃焼ゴミの収集を月二回に▽子ども向きの映画館がほしい▽図書館の日曜開放を望む▽沢口地区からの朝の通学バス(スクールにして)を鷹巣中学校前まで運行できないか▽新田中に電話ボックスの設置を切望する▽農村公害対策について▽農業用堤などの安全放水路完備対策について

今月は

5・19日

(受付9時～正午)

受付は総務課秘書係

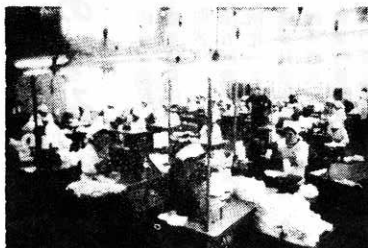
町長面会日



ハリマヤ秋田株式会社第2工場（鷹巣）



楽屋被服株式会社鷹巣工場（綴子）



フジノ株式会社（今泉）



楽屋被服株式会社鷹巣工場第1分工場（鷹巣）



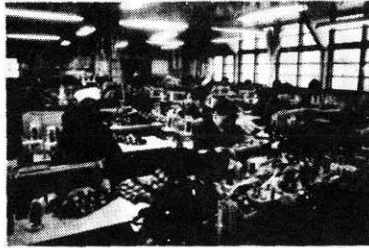
新興電機工業株式会社（七日市）



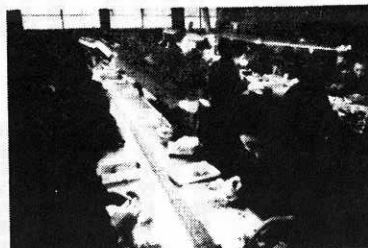
楽屋被服株式会社鷹巣工場第2分工場（鷹巣）



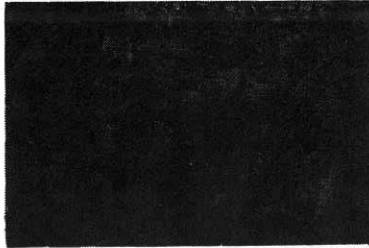
ホーク電機株式会社（鷹巣）



須野原縫製株式会社（田中）



米代電子工業所（糠沢）



ハリマヤ秋田株式会社（高村岱）



△：近年、産業および人口の大都市集中化、予期しなかった町内人…△
 △：口の減少をまねき、とくに若年層を中心とする労働力の県外流出…△
 △：は、本町の社会経済の発展に大きな影響をおよぼしています。…△
 △：こうしたなかで本町では、工場誘致などにより、主として、女性…△
 △：労働力で稼働している職場も多く、縫製、軽電工業の進出で所得…△
 △：向上に大きな原動力となっています。現在、七社十工場に女性だ…△
 △：けで四百八十人が就職しています。その作業風景を紹介します。…△

